



明治5年から創立149年

浜っ子石田

学校の教育目標

☆向上心を持ち 高め合う子

◎つも元気で やりぬく子

◎んげんに考え くふうする子

◎れとも仲よく 助け合う子

「分かる・できる」を実感できる授業

校長 朝倉 美音子

先日、6年生で算数の授業をする機会に恵まれました。自分はこれまで中学校での勤務だったので、小学校で授業をするのは初めてのことです。ちょうど「並べ方と組み合わせ方」という区切りの良い単元だったので、自分のスタイルで授業をすることにしました。とはいえ、令和2年に小学校学習指導要領が全面実施となり、授業の流れや評価の仕方も以前とは違います。最初の授業で子供たちに「毎時間、授業の終わりには類似問題を解くこと、内容の理解についてはA B C Dの4段階で自己評価すること」を話しました。実際、類似問題が正解でも、内容の理解をA（理解できた）ではなく、B（だいたい理解できた）にしている子供もおり、次の授業では補充学習を取り入れるなど、子供たちの評価を授業改善につなげるようにしました。また、県内には、小学校から中学校までの義務教育を一貫して行う義務教育学校や、近隣の小学校で中学校の先生が授業する例もあり、小学校と中学校の連携が行われています。今回の授業も、小中のつながりを少し意識しながら進めました。



現在、学校教育を取り巻く環境は刻々と変化しています。1人に1台、タブレット端末が支給され、ICTが利活用されています。また、小学校での教科担任制導入も進められようとしています。この教科担任制が導入されることによって、授業の質が向上するとともに、子供たちの学習内容の理解度や定着度が向上し、学びの高度化が図られると考えられています。さらに教科担任制に慣れておくことにより、小学校から中学校への接続が円滑になり、中一ギャップ（小学6年生から中学1年生に進級した際に被る、心理や学問、文化的なギャップと、それによるショックのこと）が解消できるのではないとも言われています。



さて、短い期間でしたが、久しぶりに授業を担当して、学習内容が分かったときの子供の表情、張り切って自分の考えを発表しようとする子供の姿、「分かった、できた」ときの子供の輝く様子に大きな喜びを感じました。学校教育の環境が変化しても、「分かる授業」「できる授業」が子供たちの学ぶ意欲を高め、一人一人の可能性を引き出すことは不易の部分だと思います。今後も、子供一人一人の学びを最大限に引き出し、主体的な学びを支援するよう、教職員がチームとなって取り組んでいきたいと思ひます。

12月の行事予定

- 1日(水) 児童集金口座振替日、個別懇談会①
- 2日(木) 個別懇談会②、スクールカウンセラー勤務
- 3日(金) 個別懇談会（1、5、6年）
スクールカウンセラー勤務
- 6日(月) 委員会活動、なかよし集会
- 9日(木) PTA常任委員会⑧
- 10日(金) 書き初め練習、ほのぼのデー
- 13日(月) クラブ活動
- 17日(金) 書き初め練習

- 22日(水) スクールソーシャルワーカー勤務
- 23日(木) 給食最終日
- 24日(金) 第2学期終業式
- 25日(土) 冬季休業（～1/10）
〈今後の主な予定〉
- 1/11(火) 第3学期始業式
- 1/25(火) スキー体験学習会
- 3/17(木) 卒業証書授与式
- 3/24(木) 修了式

